



西覚寺だより

第十号

年四回発行

春季彼岸会のご案内

日にち 三月 二十一日 (日)

時間 午後一時半 ～ 午後三時頃まで
内容 お勤め(正信念仏偈六首引き)
落語 演目は『宗論』
法話 住職

・ 講題『仏教って何?』
御文章『八万の法蔵章』

落語

三浦充喜さん
三浦さんは、蒲郡在住のアマチュアの方です。住職の大学時代の同級生で、三浦さんは「落語研究会」に在籍されていました。

宗論ってどんなお話?

ある大店の主人と若旦那にまつわるお話。主人は熱心な浄土真宗の門徒だが、若旦那がキリスト教にハマってしまった事が気に入らない。そんな二人はある日、口論に…

持ち物

マスク着用!
経本、お念珠、
門徒式章(お持ちの方)、
御仏前(受付にお渡し下さい)
みなさま、ぜひお参り下さい!!

【コラム】

善人が救われるのなら、
悪人が救われるのは
言うまでもない

あるとき、ご門徒さまに質問されたんです。
「歎異抄(たんにしよう)のある一節について、
わかったような気もするんですが、後々になって改めて
考えてみると、やっぱりよくわからないんです。」と。
それは、歎異抄という書物の、第三章のこの一節でした。

「善人なをもて往生をとぐ、いはんや悪人をや。」(以下略)

(意識) 「善人さえも阿弥陀さまのお浄土へ生まれさせてもらう
のだから、まして悪人はなおさらのことである。」

読んだ通り、私たちの日常の感覚からすれば、疑問符が付きます。
腑に落ちません。私たちの常識では、勸善懲悪、水戸黄門、暴れん坊
將軍の世界ですから、善は救われ、悪は懲らしめられるはずですが、
まず、歎異抄(たんにしよう)とは何か。著者は、晩年の親鸞聖人
に付き従い、親しくその教えを聞かれていた門弟の方です。名前は
唯円という方であると言われています。親鸞聖人の没後、門弟たち
の間に、色々とい義(異なる見解)や邪説(まちがった見解)が流布
してしまっています。お師匠を亡くすと致し方ないことです。正しく
れる人がいないのですから。トップが去ると組織が揺らぐのは、現
代社会も同様です。その意義邪説の中、どれが親鸞聖人の本當の教
えか迷うものが出てきた。その状況を歎いた(なげいた)著者が、か
つて親鸞聖人から聞き耳底に残っている親鸞聖人のお言葉を紹介し
ながら、異義邪説を正そうとした書物が、歎異抄です。「異」義を
「歎」いたものが、歎異抄なのです。

つまり、書いたのは親鸞聖人ではありませんが、書かれているお
言葉は、親鸞聖人のお言葉として受け止められるものです。従って、
先に紹介したお言葉も親鸞聖人のお言葉なのです。
であるならば、「間違った」ものではないのです。注意深く読ま
なければなりません。今回のコラムでは、この一節について、ともに
学ばせて頂こうと思っています。全何回になるかはわかりませんが、



この一節の肝要は、「阿弥陀さまの救いの
めあては誰か」。そして「悪人とは誰のこと
なのか」だと思っています。

(次号へ)



【重要！】法要時の駐車場について

表題の件、大事なお知らせです。
今まで、西覚寺主催の法要時には、
(お彼岸や盂蘭盆会、報恩講法要など)

西覚寺駐車場出入口の向かいの「空地」を、
臨時の駐車場としてお借りしていました。

昨年より、その空地は住宅を建設中です。
現在も工事は続いており、工事車両が常時
入れ替わり立ち代わり使用しています。

また、もとよりのその空地の持ち主さん
の車も常に駐車、出入りしています。

そのため、今後は法要にお参りの際、
またその他のときも、

決して駐車しないでください！

3月のお彼岸の法要の際、西覚寺の駐車
場はすぐに満車になると思います。

おみ足の元気な方、余裕のある方は、
法要にお越しの際は、ぜひお近くの市営駐
車場をご利用ください。

市営駐車場の場所は、西覚寺北側、JR
の線路沿いにあります。有料で申し訳あり
ませんが、ぜひご協力をお願い致します。

西覚寺

住職

三井求

拝



「法事、承ります。」



昨年の一月頃から、新型コロナウイルスが取り
沙汰されるようになり、三月には日本でも本格的
な「騒ぎ」となりました。そして、三回の緊急事態
宣言を経て、現在に至ります。

その中、この一年の間に、西覚寺ではお年忌や
満中陰法要(四十九日法要)が、一五〇件以上勤
まりました。いわゆる「コロナ禍」の中でも、私ど
も西覚寺にご縁を頂いている多くのご門徒さま、
ご家族の皆さまが、ご法事という「仏縁」を大切
に勤めてくださいました。

勿論、皆さまそれぞれに気を遣われながらのお
勤めであったことです。お集りになる人数を絞っ
たり、遠距離にお住まいのご家族・ご親戚にはご
遠慮いただいたり、ご自宅は密になるのでお寺の
本堂で勤めたり、マスクを着けたまま、会食も控
えて、など、骨を折り心を尽くしてお勤めくだ
さったこと、惟ればまったく尊いことです。あり
がたいことでありました。なんまんだぶ。

★これから、ご法事承ります。★

引き続き、私たち西覚寺家族も、外出・外食は
できるだけ控え、健康・感染予防に気を付けなが
ら過ごしてまいります。

ご法事は、私たちが「阿弥陀さま」にお参りを
させて頂き、仏さまのお話を聴かせて頂く大切な
ご縁でもあります。日ごろ、なかなか仏さまに手
を合わせることもない私たちに、亡き方々が導き
与えてくださる「阿弥陀さまと私たち」との大切
な時間、それがご法事です。

どうぞ、遠慮なくご連絡ください。不安な点が
あれば、どうぞご相談ください。予約・相談は電
話で構いません。

お問い合わせ、お勤めさせて頂きましょ。

◆ 住職の一言コーナー ◆

◆ 案内が遅くなり申し訳あり
ません。緊急事態宣言の様子を
窺いながら：でしたので。

「コロナ禍」についてひとつ思
うことは、人間はどうしても「比
較」したがるものだと感じます。
比較する理由は、往々にして「人
より優位に立ちたい」や「自己主
張の正当性を示す為」かと。「あ
の国よりマシ」「あの国に比べる
と日本はダメ」とか。国内でも各
都道府県の首長を比べたり。前
向きな参考にするならまだしも
…。国や地域それぞれに事情もあ
るので、本来比べるものでもな
いのかも知れません。

でも、どうしても比べてしま
います。比べるということは一「分
別する」ということです。分別す
ると、「自己(我)」と他」が生じ、
そこには「自己中心的考え」が
蔓延ります。「分別がある」とは、
世の中ではない意味で使います
が、仏教的には「分別」は「我」
の結果であり、煩惱のもととし
て、良い見方はしないのです。

そうそう、私はあの方が仰っ
ていた「わきまえてある云々」と
いう感覚は好きではありません。



浄土真宗本願寺派
西覚寺

安城市朝日町12・8

☎ 0566・76・3594

http://saikakuji.sakura.ne.jp/wp/